

- ・教養番組制作・・・地元ケーブルTVにて放送
- ・すこいやんかトーク 鈴木英敬知事 P.1

- ・経済学部産学官連携フォーラム開催
- ・リーディング産業展に出展
- ・多文化共生社会を考える P.3

- ・ジョイントセミナー
- ・総合政策学部の松井教授が生協総研賞を受賞
- ・関孝和数学研究所が文化講演会を開催
- ・次年度に向けた就職指導本格化 P.2

- ・エコ活動
- ・ソフトテニス部東海三県学生大会V5達成
- ・硬式野球部「東海地区新人トーナメント戦」優勝
- ・大学祭で社交ダンスの舞台を企画 P.4

## 教養番組制作 ■ ■ ■ 地元ケーブルTV (CTY) にて放送

四日市大学は、10月1日(土)より、CTYコミュニティチャンネルにおいて「世界を見つめ地域を考える・ETVよっかだい」の放映を開始した。これは四日市大学が地域貢献を目指して提供する教養番組で、大学が取り組む教育研究や地域の出来事と課題などを取り上げて北勢地域の視聴者に提供する。企画、撮影、編集などの番組作り全般を学生と教員が行うが、そのために、学内に専用の編集室や編集用パソコン、業務用ビデオカメラなどの機器を設置し、またその作業にあたる学生グループを組織した。初めて番組作りを行う者ばかりで、最初は戸惑いもあったが、CTY社の協力で順調に進めることができ、これまでに3本(「伊勢湾の環境と三重大勢水丸による海洋調査実習」「新田ゼミのディベート授業(生物多様性は本当に必要か)・(地球環境問題が描く怖い将来とは)」)の各30分番組の制作を終え、現在は数本を並行して制作中である。大学が番組作りを直接担当するというユニークな取り組みで、本学の学生だけではなく、地域の幅広い年齢層の方々にも、教育や情報を発信できるという良い機会である。また、制作スタッフの学生は、「番組の企画・スケジュール管理・共同作業・学外者との折衝なども行うのでとても大変だが、やりがいもあり、授業では学べない貴重な経験をしている。」と語った。



## すこいやんかトーク 鈴木英敬知事 in 四日市大学・四日市看護医療大学

鈴木英敬三重県知事と四日市大学・四日市看護医療大学、両大学の学生が、県や地域のことなどについて懇談する「みえの現場・すこいやんかトーク in 四日市大学・四日市看護医療大学」が、12月7日(水)、学内の四日市地域研究機構にて開催された。これは普段接することの少ない若者、特に三重県の大学などで学ぶ学生を対象に、知事が直接キャンパスに出向き学生と懇談するもの。本学の岩崎恭典・学長補佐をファシリテーターに、両学の学生らが日頃の活動を通じて感じていることや、県への要望などについて、約90分間懇談した。四日市大学からは、「四日大エコ活動」、「Movie Zoo」、「ボランティア部」、四日市看護医療大学からは「学生ボランティアサークル」(5人)、合わせて計4団体(16人)の主に地域活動などに積極的に活動している学生が参加した。懇談は、団体紹介・自己紹介の後、「三重のよいところ」「今ひとつのところ」を各自紹介し、そこから学生が感じている課題などを絞り込みながら進められた。学生からは、「活動に参加しても同世代の若者にほとんど出会わない」や「活動の輪を広げてゆくことが難しい」などの声が出され、それに対しては授業やアルバイトとは異なる新たな出会いや活動のチャンスを創り出していくことが大切など、知事も積極的に発言され、情報発信のための県施設の活用などを提案された。若者の声が若い知事の原動力になり、活気ある三重県、三重県政に貢献できることを期待したい。



# ジョイントセミナー

総合政策学部で地域の様々な問題の解決をテーマとして研究をしている岩崎ゼミ、小林ゼミでは、毎年、11月の最後の金曜日から日曜日にかけて、同じように地方自治を勉強している関東の5大学(早稲田、法政、拓殖、中央学院、宇都宮)とジョイント・セミナーを実施している。今年、本学は幹事校として、総勢100人以上に及ぶ参加者をまとめるという大役が回ってきた。そのため、一部の学生は木曜日から、千葉県館山市の中央学院大学セミナーハウスに乗りこんで、事前の準備を行った。発表当日、6大学共通論題「水・くらし・行政」には、本学は「羊水」をテーマとして、羊水検査の是非や子どもの命について発表した。他大学の先生からは、「重いテーマをよく取り上げた」と評価してもらった。土曜日の分科会では、「ゆとり教育の功罪」、「入湯税と温泉地振興」という2チームが本学からは参加した。日曜日の大学対抗フットサル大会を終え、最後の後片付けまで済ませた。同行した岩崎教授は、「学生諸君は、四日市で毎晩遅くまで発表の準備をしていた蓄積疲労と幹事校としての3泊4日の疲労が相まって、疲れた顔は隠せなかったが、やり終えたという充実感や多くの友達ができたという満足感も現れていて、担当教員としては、嬉しい限り。」と語った。



## 総合政策学部の松井教授が生協総研賞を受賞

公益財団法人生協総合研究所が、人々のくらしや社会運動をめぐる研究の発展を目的として設けている「生協総研賞」に、総合政策学部の松井真理子教授の著書が受賞され、このほど東京で受賞式が行われた。これは2009年1月1日から2010年12月31日までの2年間に刊行あるいは発表された著書・論文等を対象とし、出版社等から推薦を受けた著作(計69件)から選考されたもの。受賞理由として、「内外のNPOの状況、特に資金調達や中間支援組織の問題を考える上で優れた分析や見識に満ちていること」や「新しい公共に緊密に結びついたNPOと政府/自治体とのコラボレーションのあり方をめぐって論争的な議論が刺激的であり、特に政府/自治体に対するNPO全体のガバナンスを高めるために、中間支援団体の存在が不可欠だという提言が示唆に富む」ことなどが挙げられた。これは松井教授の研究テーマそのものであり、研究内容の先進性が高く評価されたといえる。

## 関孝和数学研究所が文化講演会を開催

11月20日(日)本学において関孝和数学研究所主催の文化講演会が開催され、上野健爾所長による「関孝和の数学」、小川東副所長による「松永良弼の手紙を読む」の二つの講演と、参加者からの話題提供によるパネルディスカッション(パネラーは上野所長、小川副所長の他に藤井康生研究員、有田八州穂研究員)が行なわれた。特にパネルディスカッションでは、数学史と関連して数学教育に関する話題もあり、活発な意見が交換された。

## 次年度に向けた就職指導本格化

11月15日(火)、四日市大学において、三重県生活文化部「おしごと広場みえ」の無料就職相談会を開催した。会場は、就職活動やキャリアカウンセリングについて相談する学生でにぎわった。また、12月3日(土)には、ポートメッセなごやで行われた「マイナビ就職EXPOバスツアー」に、3年生約30名が参加した。初めての企業展にやや緊張気味の中、学生たちは予定より15分早くスタートした会場に一番乗りで入場し、希望する企業のブースへと元気よく飛び出して行った。伊藤弘人さん(総合政策学部3年)は「今年は12月1日から就職活動がスタートしたので、期間短縮で焦りを感じます。短くなった期間をより有効に企業研究するためにも、企業の方と直接話しができて良かった。」また、「学生の多さに驚いたが、負けられない。心の準備ができて良かった。」と力強く語ってくれた。

## 経済学部産学官連携フォーラム開催

経済学部では、昨年からゼミの時間を利用した産学官連携フォーラムを開催し、企業や行政の方々と交流している。2回目となる今年は、「グローバル経営とグローバル人材」というテーマで開催した。株式会社三重銀総研代表取締役社長の伊藤秀一氏に基調講演があり、日本の世界的な位置づけや、海外進出の状況、求められる人材像などについて包括的なお話をいただいた。また企業プレゼンテーションとして、株式会社試作サポーター四日市・ジャパンマテリアル株式会社・ミナミ産業株式会社の3社の方々にも、企業の立場からみたグローバル化の現状をお話していただいた。比較的身近な企業でもグローバル経営を意識していることを実感した。また今年は、学生もプレゼンテーションを行った。MovieZoo、A-pro（阿下喜プロジェクト）での活動報告や、留学生・日本人の就職・学生生活、留学生弁論などを披露した。

プレゼンテーション後、食堂に会場を移して、学生と企業・行政の方々と意見交換会を実施。学生は企業がどのような人材を求めているのか、企業の方々は、普段学生がどんなことを考えているのかを感じることができ、双方にとって良い機会となった。



## リーディング産業展に出展

11月2日（水）と3日（祝）に四日市ドームで開催された「リーディング産業展みえ2011」に出展した。今回は、「四日市大学の地域連携」をテーマとするブースを出展した。展示内容は、本学3学部と研究機構が取り組む各種の地域連携活動報告で、大人から子供までが楽しめるように、パネル展示、ビデオ、クイズ、塗り絵ゲーム、折り紙などを準備した。展示品の中で特に人気となったのが、関孝和数学研究所提供の数学パズルで、子供と年配の方々が競って取り組まれた。このパズルは、ピタゴラスの定理を子供たちに教える教材（尾鷲ひのきの手作り）で、木材の持つ優しさが好まれたようだった。また、研究機構の「阿下喜プロジェクト」の塗り絵も子供たちに人気だった。クイズやゲームの挑戦者には景品として四日市大学の伊勢竹取物語から生まれたお菓子「にわさんのため息」（洋菓子店タンブラン製）のプレゼントも大好評だった。よっかだいエコ活動のゆるキャラ「イモマン」が二日目に登場すると、子供や女性から握手攻め、撮影攻め「イモマン」は北勢地域の子供たちに根付き始めており、「イモマン知ってるー」「イモマンシール集めてるー」と叫んでくれる子供もいた。2日間でブースには200名を超える来場者があり、四日市大学の地域連携活動を伝える目的を果たせた。

## 多文化共生社会を考える

10月23日（土）、国際交流企画「多文化共生社会を考える」プログラム第2弾として、パネルディスカッションとグループディスカッションを開催した。パネルディスカッションでは経済学部、富田与教授の基調講演「70億人時代の多文化共生—国際交流から『地球社会の形成』へ—」があり、その後、パネリストによる意見交換があった。国籍という単位に加え、世代や階層間の問題、国際交流という観点を超え、地球全体という大きな単位で社会をとらえるべきではないかという問題提起がある一方、現実に日々の課題は地元中心の小さな単位になることが多いなど、多様な方面から意見が出された。続くグループディスカッションでは7チームに分かれ、あらかじめ示されたテーマについてそれぞれ話し合った。テーマは「留学以外の目的で日本に入国する意味」、「世界の高校や大学の相違点」「日本に住む外国人に知らせるべきルール」など、広い範囲で提起された。「普段、考えたこともないようなテーマについて考える機会になった」「刺激になった」「学内で、多様な立場の人が50人も集まる機会は貴重だ」など、前向きな意見が多く聞かれた。

## エコ活動

四日大エコ活動（正式名称：四日市大学環境協働活動会議）の学生たちは活発な活動を続けている。大学祭（10/22、10/23）では、地域の子供たちを招くための企画「ちびっこよんよん祭」を行い、既に熟練の腕前となった手製の竹とんぼを多数準備し、子供たちを楽しませた。また、大学キャンパスの竹を利用してスタードーム（写真）を作成し、大学祭を盛り上げた。

また、11月25日（金）には恒例となった「秋の収穫祭」を行い、大学キャンパス内の荒地を開墾して育てた野菜類を収穫し、その中のサツマイモを焼き芋にして皆で食べた。今年のサツマイモは特に育ちが良く、味も最高で、秋の夕暮れの冷えた空気の中で、皆で熱い焼き芋を頬張った。



## ソフトテニス部東海三県学生大会V5達成

10月29日（土）から30日（日）に、静岡大学において平成23年度東海三県（三重、岐阜、静岡）学生ソフトテニス大会が開催された。29日の大学対抗戦および、30日の選手権大会ともに上位を独占し、平成19年の初優勝から5年連続Vを達成した。選手たちは「今後も日々、技術面・メンタル面ともに鍛錬し、この優勝記録を伸ばし続けるようがんばります。」と語った。来年度は、女子部も加わり男女アベック優勝と新たな目標ができ、その目標達成に向け、更なるソフトテニス部員の活躍に期待したい。



## 硬式野球部「東海地区新人トーナメント戦」優勝

硬式野球部が11月5日（土）に静岡県松前球場で開催された「東海地区新人トーナメント戦」において初優勝した。この大会は、静岡・岐阜・三重各県の新人（1・2年生）戦を勝ち抜いた県代表（開催県の静岡県からは2チーム出場）4チームによるトーナメントで行われた。個人賞として森崎智和選手（総合政策学部2年：尽誠学園高校出身）が最優秀選手賞を受賞した。



## 大学祭で社交ダンスの舞台を企画

ダンス世界大会、元ロシアグランプリチャンピオンになった経験を持つ池田耕治さん（総合政策学部1年生・社会人学生）が、学生たちに生のダンスを見る機会が持てればと、10月23日（日）に開催された大学祭「よんよん祭」でダンスの舞台を企画した。当日は池田さんがダンス教室で教えている方々が社交ダンスを披露。ダンスが始まると舞台が一瞬にして華やかな雰囲気にかわり、初めて社交ダンスを間近かで見た学生たちは、吸い込まれるように演技を見入った。今後、池田さんはダンスを通して、社会貢献できる方法にも目をむけているようで、池田さんの今後の活躍にも目が離せない。

これまでのPick Up Topicsはホームページでご覧いただけます。

<http://www.yokkaichi-u.ac.jp/examinee/topic.html>

または、四日市大学トップ→大学案内→ピックアップ・トピックスでご覧ください。

<http://www.yokkaichi-u.ac.jp/>

学校法人 暁学園 四日市大学

【発行】入試広報室

〒512-8512 三重県四日市市萱生町1200

TEL059-365-6711 FAX059-365-6630